

ごあいさつ

主の御名をほめたたえます。

いつも「被災支援ネットワーク・東北ヘルプ」を覚えてくださり、尊いお祈りとご支援を賜り、心から感謝いたします。

東日本大震災から13年が経過しました。今年初めには、能登半島地震が起き、支援活動が続いております。2011年当時、このような巨大な地震は、千年に一度の地震、想定外の地震と言われましたが、その後の相次ぐ各地での地震によって、今や、そのような地震が、日本のどこで起きても不思議ではないと多くの人が考えるようになりました。

私の住む福島県は、地震、津波、原発事故と三重苦に見舞われたと言われました。地震の被害、津波の被害は、建物が修復され、防潮堤が建設され、新しい街並みが整って来ますと、「ああ、復興してきた」と目に見える回復を実感します。また、放射能汚染も、次第に空間線量が下がり、以前のような線量を気にする生活から解放されていきますと、かつての緊張を強いられた生活が夢のようです。けれども、そもそもの問題が解決したわけではありません。破壊されたコミュニティは元には戻りませんし、放射能に汚染された大地が元に戻るには、長い時間がかかります。事故を起こした福島第一原子力発電所の廃炉は、様々なトラブルが続き、未だに解け落ちた燃料デブリの取り出しすら開始できない現状です。福島県内の除染で出た大量の除染除去土壌が、福島第一原子力発電所周辺の帰還困難区域に建設された中間貯蔵施設に運び込まれ、2045年3月までに福島県外で最終処分することになっていますが、最終処分のめどは全く立っていません。アルプス処理水の海洋放出の問題、原発構内に増え続ける汚染資材の問題、コンクリート部分が溶けて鉄筋がむき出しになっている一号機圧力容器を支えるペデスタル基礎の問題等々、福島の未来は、厚い雲に閉ざされています。

東日本大震災被災地の息の長い支援をするため、東北ヘルプは、様々な努力を重ね、スリムな運営を心掛け現在に至っています。今なお、皆様に、息の長い支援をお願いしなければなりませんことには、心苦しさも覚えつつ、なお、お祈り下さり、ご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

2024年受難週

東北ヘルプ理事 木田恵嗣

(ミッション東北 郡山キリスト福音教会 牧師)